

ひとりじゃないよ

永野 美代子（福島県）

震災後、福島では当たり前だと思っていたことが当たり前ではなくなりました。日光を浴びながら風を切って走ることに、石を拾ったり砂で遊ぶこと、草の上に座り葉っぱを掌にのせたり野の花を摘むことなどの戸外遊びが制限され、子ども達からたくさん貴重な体験を奪ってしまいました。とても皮肉な事ですが、私たち大人は、子どもと一緒にのんびりと外を散歩する何でもないことがどんなに素晴らしい豊かな日常だったか初めて気づいたのです。

そんな状況の中、家に籠りがちな親子に「ひとりじゃないよ」と伝えたくて、震災を受け取ってもらえませんか？」と見知らぬ方から電話がかかってきました。震災後、いち早く手を差し伸べてくれた子育てひろば全国連絡協議会を通じて全国の皆様へ綴った手紙を読んで、たんぽぽサロンの連絡先を探してくれたそうで嬉しくて涙が出ました。「外遊びが出来ない子ども達が、室内で少しでものびのびと遊べますように」と、横浜市神奈川区のおばあちゃんやお母さん達が風呂敷を持ち寄り縫い合わせてくれた手作りのパラバルーン。

今日もママ達みんなで布の端を持って両手を上げると綺麗な布がふわりとひろがります。そこに込められた祈りや願いが、大きな屋根となつて、布の下にいる子ども達を包み込みます。子ども達が「わーい」と歓声をあげるとその姿にママが思わずにっこり。子どもを真ん中に大人がみんな布を上下に振りながら「歩こう〜歩

から2か月後、たんぽぽサロンはオープンしました。たった一組でもこの場所を必要としてくれる親子がいるかもしれないと、スタッフ一人の小さな居場所が民家の二階でスタートしたのです。たくさんの方の再会や出会いがありました。顔を見るなり泣き出すママもいました。それでも、みんなでお茶を飲みながらおしゃべりしたら笑顔になりました。不安な気持ちを話したママに「私もそうだよ」と声をかける仲間がいました。疲れ切ったママが抱いている赤ちゃんをみんなであやしたり、ミルクを作つてあげたり、おむつを替えたりと「お互い様」と笑いあうママ達の姿もありました。いつもオロオロしている私にも「大丈夫！ひとりじゃないよ」といつの間にか少しずつ仲間が増えてきました。私の方が親子の笑顔から勇気や希望を貰い支えられてきたのだと思います。

秋のある日のこと、「風呂敷パラバルーン

こう〜私は元気〜」と、歌いながら歩きます。ほらっ、ママが笑って歌ってる。その姿に子どもの笑顔がますます輝きます。次は、みんなで「上から下から大風こい〜こい、こい、こい〜」とわらべうたを歌いながら布を揺らします。「がんばれ」の応援の風を私たちは受け取って、自分達で室内で風を起こしているのです。ダイナミックな遊びに子ども達の笑顔が弾け、見守るママ達は涙ぐみながら笑っています。遠くからのエールありがとう。これからも私達は、ひとりじゃない。そう信じて歩き続けます。

